



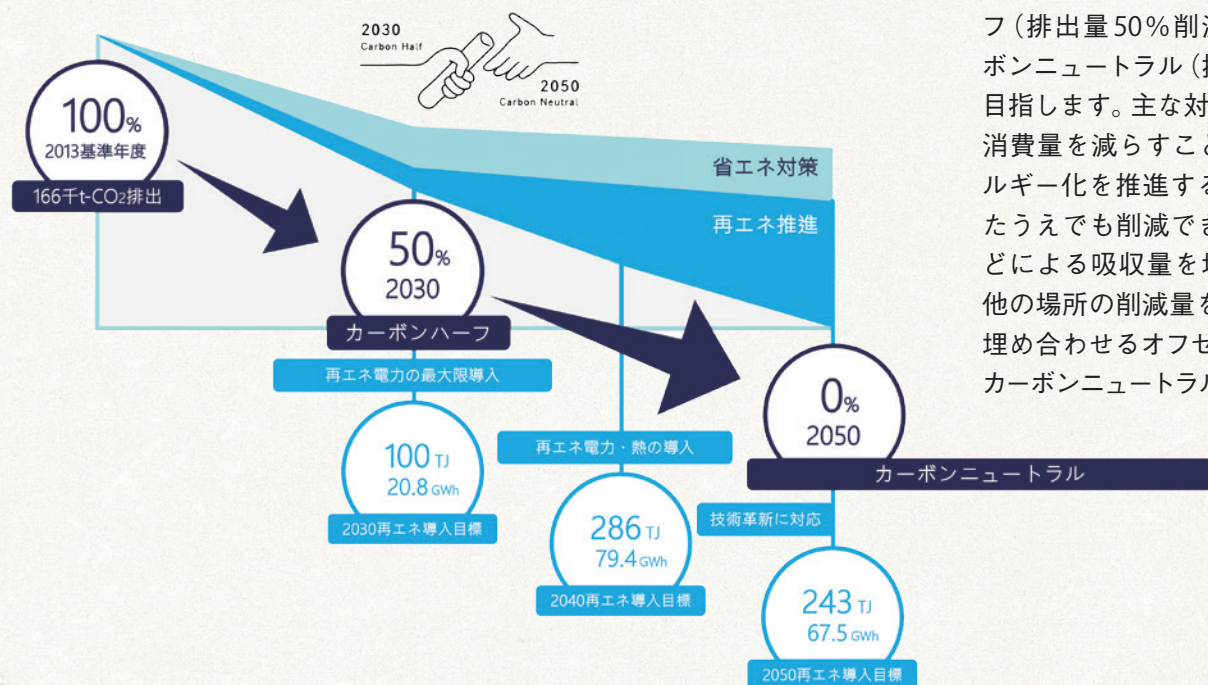
ゼロカーボン 今日から始める脱炭素

近年、国内外でさまざまな気象災害が発生しています。二酸化炭素などの温室効果ガス排出による地球温暖化が原因の一つで、自然環境や生態系、農作物への影響など多くのリスクが指摘されています。誰もが無関係ではられない深刻な問題です。

今回の特集では、温室効果ガスを削減し「カーボンニュートラル」を目指す取り組みについて考えます。

内子町脱炭素戦略 [概要]

かわらないように、かえてゆく。
町並み、村並み、山並みを引き継ぐ、脱炭素リレー。



内子町では2013年度の二酸化炭素排出量を基準に、2030年のカーボンハーフ（排出量50%削減）、2050年のカーボンニュートラル（排出量実質ゼロ）を目指します。主な対策は、エネルギーの消費量を減らすことと、再生可能エネルギー化を推進することです。対策したうえでも削減できない分は、森林などによる吸収量を増やす取り組みや、他の場所の削減量を購入するなどして埋め合わせるオフセット対策によって、カーボンニュートラルを目指します。

《脱炭素戦略の基本方針》

- 1 林業×発電×熱利用で循環型社会の促進
- 2 町並み・村並み・山並みを持続する
温故知新な再エネ導入
- 3 不安定な再エネ事業を官民連携でカバー

まずは2030年のカーボンハーフ達成に向けて、再生可能エネルギーの地産地消による地域活性化をテーマに3つの基本方針を掲げました。脱炭素戦略の詳細は内子町ホームページでも公開しています。

ID 0136386



ギーの自給自足と地域経済の活性化を図り、未来へつなげる持続可能なまちづくりを推進していきます。

「三並み」をつなぐために

「エコロジータウン内子」を掲げる内子町にとって、環境保全はあらゆる施策の基礎となります。また内子町は「町並み、村並み、山並みが美しい、持続的に発展するまち」を掲げて、歴史や文化、景観を大切にしたいと、ちづくりに取り組んでいます。景観の美しさは豊かな自然環境と人との調和の中で形成されるもので、これらを次世代につないでいくことは町の重点施策の一つです。気候危機は、こうした町の大切な財産を奪いかねない大きな問題なのです。

脱炭素戦略の目的は、私たちが大切にしてきた町並み・村並み・山並みを守り、子どもたちに受け継いでいくことです。取り組みには行政だけでなく、皆さん一人一人の協力が欠かせません。「ゼロカーボンシティうちこ」を実現して、将来にわたって住み続けられるまちを一緒につくっていきましょう。

省エネ×再エネで目指す「ゼロカーボンシティうちこ」

異常気象が多発する状況は単なる気候変動ではなく、私たちの暮らしを揺るがす「気候危機」と位置づけられるようになりました。このような中で内子町は、将来の温室効果ガスの実質排出ゼロを目指す「ゼロカーボンシティうちこ」を宣言。気候変動問題に対するこれからの取り組みについて小野植正久町長に聞きました。

世界共通の課題「気候危機」

猛暑や集中豪雨、大型台風など、異常気象と災害を引き起こす地球温暖化。「気候危機」と呼ばれるこの状況を乗り切るため、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量を削減して気温上昇を1.5℃以内に抑えることが世界共通の目標です。しかし近年、温暖化は想像以上の速さで進んでいます。これまで通りの取り組みを続けるだけでは不十分で、今からできることを考え、行動を起こさなければなりません。

ゼロカーボンシティうちこ

カーボンニュートラルとは、温室効果ガスの排出量から、森林などによる吸収量を差し引いて、合計を実質ゼロにすることをいいます。日本政府が2050年までのカーボンニュートラル達成を目指すことを宣言したことを受けて、内子町においてもカーボンニュートラル「ゼロカーボンシティうちこ」を目指すことを宣言しました。内子町の基準となる2013年度の二酸化炭素の排出量は16万6千トです。まずは

2030年に排出量を50%削減する「カーボンハーフ」を達成するのが目標です。

脱炭素戦略への思い

「ゼロカーボンシティうちこ」の実現に向けて、対策の指針となる「内子町脱炭素戦略」を策定しました。町の特性や現状を把握して、二酸化炭素排出量の削減や再生可能エネルギーの導入目標などを定めたものです。戦略の策定には多くの皆さんに関わってもらいました。町の皆さんへのアンケートや事業者へのヒアリングなどで幅広く意見

「ゼロカーボンシティうちこ」の宣言書を手にする小野植町長



を集め、愛媛大学社会共創学部の松村暢彦先生をはじめ関係者でつくる内子町地域脱炭素推進協議会で議論を深めました。この戦略策定で大事にしたのは、脱炭素を「地域課題の解決」と「地域経済活性化」の両輪で目指すことです。内子町はエネルギー代金として約33億円が町外に流出していて、そのうち約10億円が電力です。電力を再生可能エネルギー化し、それを地産地消することができれば、地域経済の循環に大きく貢献することができそうです。今回の脱炭素への取り組みを機に、エネル

——まちの皆さんが実践する「脱炭素」について聞きました——



佐伯 リエさん
〓内子21〓

6年ほど前から緑のカーテンを育てています。ゴーヤなどのつる性植物で作る、直射日光を遮る覆いのことで、暑さが和らいで冷房の節約になります。愛犬のケージにも作ったら、暑い日はカーテンの陰で涼んでいました。適度な木漏れ日で、日よけシートのように暗くなりすぎないのもいいですね。



一昨年に育てたグリーンカーテン



河田 賢二さん
〓田中〓

自宅に太陽光パネルを設置しています。内子町の補助があること知って導入を決めました。日々の発電量などがモニターで見られるので、節電の意識づけにもなっています。電気をこまめに消すなど当たり前のことですが、ちょっとした節約がエコにもつながればと思います。



屋根に設置された太陽光パネル



伊達 環美さん
〓上宿間〓

ごみを減らすよう意識しています。使い捨ての容器や割りばしはなるべく使わず、買い物の時は必ずエコバッグ。量り売りのお店は余計なごみが出なくていいですね。面倒と思うかもしれないけれど、慣れれば「少しの手間は仕方ない」と思えます。まずは家族から意識を広めていきたいです。



エコバッグで不要なレジ袋を削減

再エネ設備購入を支援しています

愛媛県 住宅向け太陽光パネル・蓄電池 共同購入事業

愛媛県では太陽光発電設備や蓄電池の購入希望者を広く県民から募り、一括発注することで価格を抑え、お得に購入する共同購入事業を始めました。内子町の補助金も併用できます。

- 登録期間 ～9月6日（水）
- 申込方法 ①専用サイトから参加登録、②見積りを確認、③現地調査後に購入判断

※詳しくは県のホームページをや案内チラシをご覧ください。

【問い合わせ】

愛媛みんなのうちに太陽光事務局

☎0120（623）100



内子町 地球温暖化対策設備 導入事業補助金

内子町では太陽光パネルなどの導入費用の一部を補助しています。利用には着工前の申請が必要です。

- 補助対象 自らが居住または居住を予定する町内の住宅に導入する人で、町民税等の滞納がない人
- 対象設備 太陽光発電システム、家庭用燃料電池、家庭用蓄電システム、木質バイオマス利用設備（事業所も可）、ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）

※詳しくは内子町のホームページをご覧ください。

ID 0132655

【問い合わせ】

環境政策室

☎0893（44）6159



始めよう、できることからゼロカーボン

これも「脱炭素」だったんだ

二酸化炭素を出さないことも、より少なくなるほうを選ぶことも「脱炭素」。実は身近なところにもエコな取り組みはたくさんあります。再生可能エネルギーである木質バイオマス発電をはじめ、町の皆さんが取り組むいろいろな「脱炭素」を紹介します。



有限会社内藤鋼業
代表取締役
内藤 昌典さん

「再エネの地産地消」で目指す脱炭素

木質バイオマス発電所は、間伐材などから作った木質ペレットを熱し、発生させたガスを燃料にして発電しています。原料となる木材が成長する過程で二酸化炭素を吸収することから、再生可能エネルギーの一つとみなされています。

発電に利用する木質ペレットは100%未利用材で作られています。これまで山に捨てられていた木材を収益化することで、少しでも山に手を入れる人が増えてくれればと期待しています。山林は、適切な時期に切って次を植えるというサイクルを回していくことが重要です。木材としては直径20センチくらいが一番高く売れます。環境の面でも、スギであれば30年生く

らいまでが二酸化炭素の吸収量が多いといわれています。木材の利用が増えることで二酸化炭素も効率的に減らせるという好循環が生まれます。

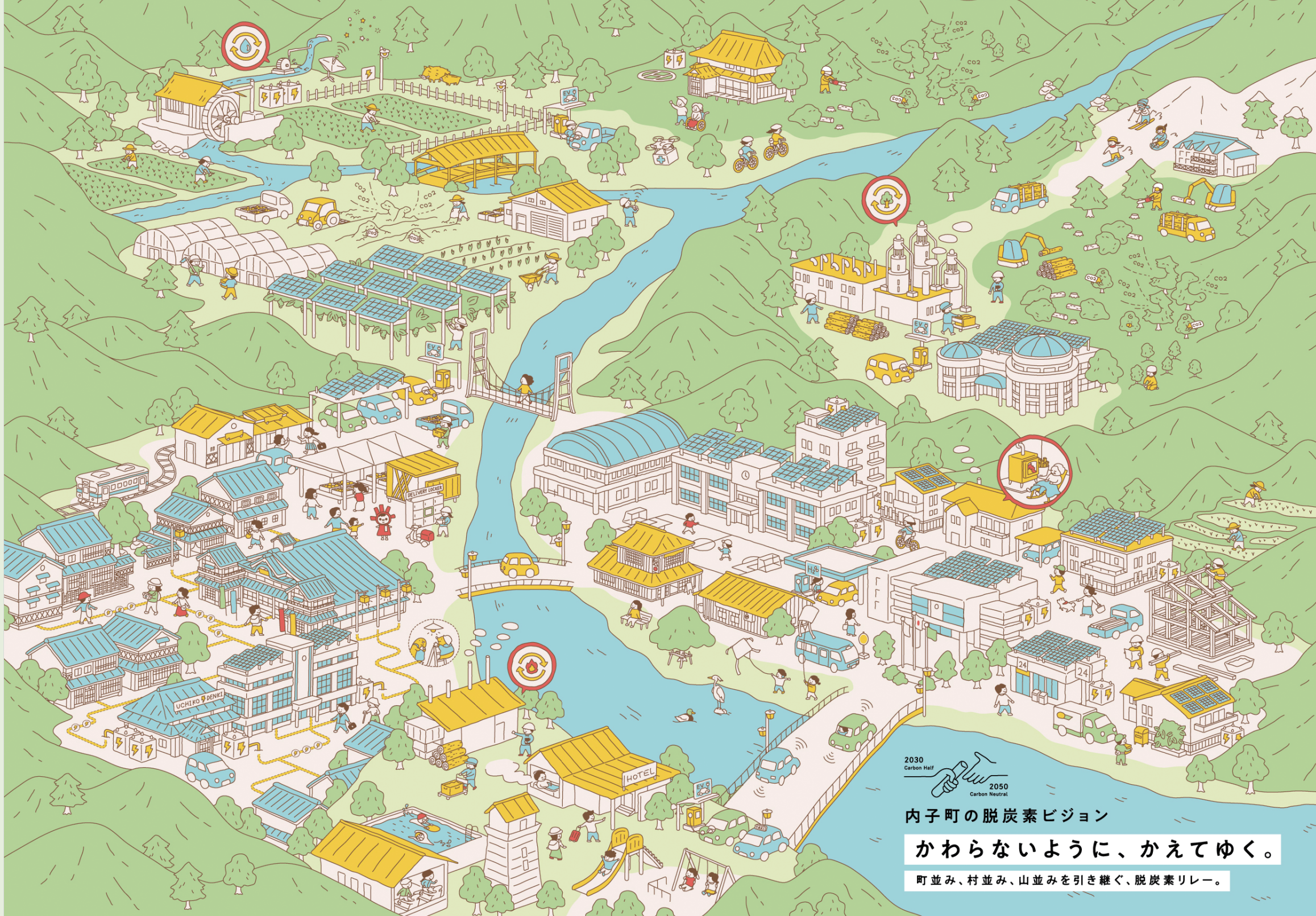
内子町の木を使うことも大切です。町内2カ所のバイオマス発電所は、原料となる木材を地域内で無理なく供給できる量を考慮して設計しました。大規模な発電所では大量の木材を地域外から仕入れなければならず、経済が循環しません。都会のまねをするのではなく、地域にあるものをうまく利用して、今の町で一番いい方法を考えればいいのです。いつか町の電気を100%再生可能エネルギーで作って「エネルギーの地産地消」を実現するのが私の夢です。



1_昨年10月から稼働を始めた「内子龍王バイオマス発電所」 2_木質ペレットを加熱してガス化する機械。発電時に発生した熱は隣接する温浴施設などで活用している 3_未利用材から作られた木質ペレット



脱炭素で描く内子の未来



まちの将来ビジョン

内子町脱炭素戦略の策定に合
わせて、将来のまちの姿を描い
た「内子町脱炭素ビジョン」を作
りました。このビジョンは脱炭
素に向かう未来を想像するた
めの下地になるものです。ゼロ
カーボンシティの実現には、自
治体だけでなく官民一体となっ
て取り組む必要があります。多
くの主体が協働して一つの方向
に向かうには、皆さんと思いを
共有しながら取り組みを考える
ことが大切です。

地域に合った取り組みを

ビジョンには内子町で取り組
みたいプランをいくつも描きま
した。町内でも地域の特性に応
じてさまざまな対策が考えられ
ます。たとえば景観の面から太
陽光パネルを設置できない町並
み保存地区では、別の地域で発
電した再生可能エネルギーを特
定エリアに供給する「マイクログ
リッド」という仕組みが有効で
す。村並みエリアでは農地など
での太陽光発電や小水力発電の
活用、山並みエリアでは森林資
源の活用促進による二酸化炭素
の吸収量拡大などが期待されま

す。さらに町全体の取り組みと
して電気自動車の普及に向けた
インフラ整備などもあります。
地域の文化や強みを生かした取
り組みを進め、町全体で脱炭素
社会の実現を図ります。

ふるさとの風景を守るために

脱炭素戦略は私たちの大切な
ふるさとの風景や文化を守るた
めにあります。取り組みによっ
て景観が損なわれたり、地域が
疲弊したりしてはいけません。
持続可能なまちの実現に向けた
脱炭素のアクションは、皆さん
の身近にもきつとあります。理
想の未来を想像してできること
を考え、行動してみませんか。



風景が変わらないよう
暮らし方を変えていく

株式会社武田林業

武田 惇奨^{しゅんすけ}さん = 黒内坊 =

幼い頃に内子の山で過ごした楽し
い思い出があります。面積の8割を
森林が占める内子町では、脱炭素に
林業が深く関わります。先人が作り
上げた森林と里山の風景を守りたい
と願う町民として、そして2050年
を背負う子をもつ一人の親として、
戦略づくりに参加しました。

脱炭素は二酸化炭素排出量を実質
ゼロにすることがゴールです。内子
町脱炭素ビジョンは、そのゴールに
どう向かっていくのかをイメージし
た一つの未来予想図です。言葉が独
り歩きをして身近なこととして捉え
づらい脱炭素社会について、「内子
ではこんなことができる」と思える
ようにヒントを散りばめました。こ
のビジョンを脱炭素社会のライフス
タイルを考えていくためのたたき台
として活用してもらえると嬉しい
です。学校や職場、地域などで、生
活に身近なエネルギーについて議論
する機会を増えることを願います。

戦略のテーマ「かわらないように、
かえてゆく。」には、大切な風景や
文化、里山の生活を守っていくため
に脱炭素社会の実現を図る、という
メッセージを込めています。節電や
太陽光パネルの導入をはじめ、皆さ
んがすでに取り組んでいることも多
いです。まずは「これも脱炭素に繋
がるんだ」と知ることが「ゼロカー
ボンシティうちこ」の実現につながっ
ていくのだと思います。